

---

# 童話部のものがたり

つー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

「PDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

童話部のものがたり

### 【著者名】

IZUMI

### 【作者名】

つー

### 【あらすじ】

時はさほど遠くない未来。一般的な「普通（？）の高校、」「普通に悩みながらも入学した少女、比較的普通なクラスメイト達。そして「ごく普通の部活動・・・。え？今日の活動はアリス探し！？」  
「私には何が何だか・・・。」

学園童話ファンタジー、「ここに始動！！

## プロローグ ある男の約束

こんなお話を「存知かな?」人が書き上げた物語には、時として命が宿ると。いいや、本に足が生えて動き回るところのようなことではないよ。

赤い絨毯の敷き詰められた部屋で、初老の男性が本のページをめくっていた。紙の擦れる音が微かに響いている。

「そのようなことをおっしゃるために、私を呼んだのですか? 学園長

少し幼さの混じつた田を男は彼に向け問いかける。

「桃園君、君は先を急ぎすぎる。童話作家はゆっくうと、読者の視点で話を進めねばならないだろ?」

「では、本題をお願いします。」

学園長と呼ばれた男性は、彼に田をやり、こりりと笑った。

「桃園君、物語には命が宿る。これは事実なんだ」

「足が生えて動き回る? でも?」

「だから違うと言つていいだろ? 文字通り、命が宿るんだ」

「・・・おっしゃる意味が分かりません。」

学園長は彼の困惑した顔を見ると、手を大きく広げ、この部屋を示した。

「この学校は、私が元あつた童話博物館の土地を買って建てた。」

「現在三年生の君は知つておるはずだね」

「ええ、入学のときから既に・・・」

「童話博物館というくらいだ。世界各国の童話が集まつていた。童話に宿る命も、たくさん残つていた。もちろんそれらの作品は、学園の童話保管図書館に保存してある。抑えるのに苦労した・・・。何せ相手は狼、鬼、悪女にと、化け物だらけだ。もつて何年になるだろうなあ・・・。」

「が、学園長! 本当に分かりません! 僕は何をすれば良いんで

すか？」

困りきつた彼に男はゆっくりと歩み寄り、両肩に手を置き、「諭すよう」に言った。

「君の力を借りたい。いや、君の子孫の力を借りたいんだ。」

物語は、未来へと受け継がれる・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4892z/>

---

童話部のものがたり

2011年12月16日19時04分発行